



# Journal of the Yokohama Yacht Club



～ ニューアル ～

No.10 September 2001

社団法人 横浜ヨット協会  
Established in 1886

# YYC施設のリニューアルについて

坂野 眞一

早いもので、私が横浜ヨット協会に通うようになって15年にもなるようです。まさか、自分がオーナーになるなんて考えてもいませんでした。当時のYYCは現在とチョット違って、妖しい雰囲気（けして悪い意味では有りません）がしていましたね。

私のヨットのキャリアは、ディンギーから3年ほど東京から横須賀まで通っていました。現在の栃木→横浜より辛かったな～。今思うとタックもおぼつかないディンギー乗りだったような気がします。その後お世話になったのが梅澤オーナーのETUI（現西木オーナー）です。ETUIではクルージングにレースにと色々な体験をさせていただきました。ピンチにも結構遭遇しましたね！梅澤さん！YYCでETUIかAQUAに乗っているクルーはちょっとやそつとじゃ驚かないってね。（中村オーナーごめんなさい）玉井オーナーから現在のtomb oy（旧VOBER）を譲っていただいたのが、5年ほどまえですね。ETUIのクルー当時VOBERは憧れでした。今よりは少しスマートな玉井オーナーと松浦オーナー（またごめんなさい）が、きれいな女性をよく乗せていたと記憶しております。こっちは酔っ払いおやじ達の相手なのに（またまた、ごめんなさい）はじめてtomb oyでクルージングに出かけ突然前線の襲撃をうけた時、クルーはキャリア1年ほどの人たちが7・8名、責任の重さに「何故こんな物を買ってしまったのか！」と後悔した事もありましたが、楽しい思い出も沢山してもらいました。リニューアルについて関係のない事や、先輩の皆さんに失礼な事を書いてきましたが、私のYYCでの15年です。

理事会のメンバーとして、そんな思い出あるYYCのリニューアルについて検討させて頂いています。ひとくちにリニューアルと言っても水周りや空調設備などのように更新が早期に必要と思われる個所と、より良いクラブライフのために改装を施す個所に分かれると思います。このより良いクラブライフと言うものには、会員それぞれに価値観があるとは思いますが、それを集約するためにご意見を伺いました。

「開かれた雰囲気にしてほしい。」

「明るい雰囲気にしてほしい。」

「過剰な設備は必要ない。」

「落ち着いたクラブライフを楽しみたい。」

「夜間の使用について考えてほしい。」

「もっとロケーションの良い所に移転しては。」

等等などです。

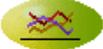


とにかく、現在の施設がたてられたのが 1979 年、約 20 年前のことで設備の見直しをするには良い時期かも知れません。より良く、より楽しい未来の横浜ヨット協会のため、もっとたくさんの皆さんに理想のヨットハーバー像についてお話をお聞かせ願えればと思っております。



## ペイオフを考慮に入れ当協会の今後の財務方針

財務担当理事より

1. クラブハウスのリニューアルに関してアンケート調査の結果種々の意見が出されているが、国の財政破綻が目前に迫った現在の状況を考慮すると、流動基本資産の内大きな部分を来期中にこれに当てたいと考えている。したがって小規模な改装に留めずに大規模な改装を提案する。  
また来期予算を組んで総会で承認後直ちに取り掛かるために早めにプランニングしておく必要があると思う。  
何故ならば現在小泉政権が進めている国家財政の破綻を防ぐ為の行財政改革の結果は等しく全ての個人、法人の財産を減らさざるを得ない（これが痛みを分かち合うと云う意味）従って現在の流動資産は数年後には何分の一かまで価値が下がる事になる。それを防ぐ為に将来に備えて固定資産に変えておく事が得策と思われる。
2. 残りの基本財産約 1 億円の保全について、数年前理事長より低金利対策として外貨預金についての提案が出されたことがあったが、為替リスクを考えると危険との見解が出され没になった経緯が有る、この事は正論であったと思うが結果として当時外貨預金にしておけば金利と為替差益で年率 15% 程度に廻っていたと思われる。但しこの事を今更蒸し返す物ではない。しかしながら来年度からの本確定なペイオフ制度の導入を考えると現状の財産保有形態には危惧を感じざるを得ない。
3. 先に述べたように、現在になって我が国の財政状況を考えるといつ破綻の日を迎えてもおかしくない。皆観念的には解っていても積極的な自衛の手を打てないのが人間の性かもしれないが。社団の財産を守る立場としては早めに手を打って此处で残りの 1 億に対してはドルに代えておいた方が安全かも知れない。為替の問題にしても一時的に 2 円～3 円の円高があったとしても中、長期的に見ると徐々に極端な円安に向かう事は間違いない。従ってこの際ドルに代えて預金しておくのも協会の資産を守る為の一手段かと思われる。それではリスクが大き過ぎるとしたら金融機関破綻に一步でも遅れて破綻する国債に乗り換えるのも一法かとも考えられる。会員諸兄のご所見を求める次第である。

# 海とヨットと水巻新次！？



嫌がる私の気持ちをよそに、父に連れられ、ヨットに乗るようになったのは、もう20年以上も前のことになります。YYCを出航して根岸の7番ブイを過ぎる頃には、胃からコミアゲルものを必死に抑えていたのが当たり前だった私にとって、無論、セーリングどころの話ではなく、「早く、陸に上がりたい・・・」という気持ちを、海上では常に思っていました。にもかかわらず、いつのまにか「日曜日はヨットの日！」という潜在意識（おそらく、父に洗脳されていた？）を植え付けられ、毎週のようにYYCに行き、ただひたすら船酔いと戦っていた、という苦い思いが、私のヨットの始まりでした。

船酔い、という最大の難点から開放されたのは、私の生まれて初めてのクルージング（大島）の際に何百頭ものイルカ群に遭遇した時でした。その時の話では、小魚の群れを追いかけていたのでは？という事でした。確かに、その大群の前方の海面上に、異常な数のカモメ群が飛び交っていました。それまでデッキの後方でグッタリと横になっていた私も、いつしか気分の悪い事も忘れて、まさに目前で起こっている海の様にしぼし心奪われていました。そして不思議と、その光景が過ぎた後も、船酔いすることなく、・・・というより、それ以後は、船酔いとは全く無関係でヨットに乗る事ができるようになりました。



その出来事は、船酔いからの開放ばかりではなく、10歳の少年であった私を“海好き”にさせるには、充分過ぎるほどのことでした。もちろん、それからは、「TVジョッキー」「アッコにおまかせ！」（その当時はなかった！？）などをよそ目に、毎週のように横浜に通い、ヨットレースに心躍らせている次第です。

ただ、最近、ぼーっと、自問してしまうのですが、「海とヨット、どっちが好き？」という問題です。別に答えを出す必要がないのかもしれませんが、今は「ヨットなのかなあ〜」という気もします。まあ、どちらにしても、今後も末永く、両者に接していきたい、という気持ちなのですが……。皆さんは、どちらですか？

最後になりましたが、若輩者ですが、今後とも、よろしく  
お願いいたします。

U,LA,LA ホナー松浦氏をこよなく愛し、尊敬する U,LA,LA クル：水巻新次



# 夢想

J. - P. 寒河江

200×年7月△日。フランス、マルセイユ。アタシは今旧港に静かに舫われているの。今週末から、アタシのジャンポールが10月までの3ヶ月間地中海沿岸を彷徨うらしいの。もちろん、アタシと二人きり。でも他所から見ればジャンポールと白い小さなヨットだけってことね。そうそう、アタシの名前はラ・グランドブルー。フランスでは地中海の別名なのよ。よろしくね。



何故アタシがそう名付けられたのかは、なにもフランス生まれだからと言う訳ではないらしいの。どうやら、ジャンポールは憧れているらしいの。アタシに？！じゃなくて、地中海によ！

昔からパリジャンに代表される北部フランスの人達にとって、地中海沿岸は別天地なのよ。バカンスに出かける人々の5割がこっちを選ぶのね。それで道路は大渋滞、宿賃は馬鹿高いし、でもそれまでして行く価値が彼らにとっては有るのね。それがグランドブルーと言うわけ。

「2時方向から本船が来てますが？」と言う声かけに、はっと我に帰った。舵を引いているスクールの滝田氏が、浦賀水道航路からの出船に気付いてのことだ。チョットうとうとしていたらしい。これも保田港での寝苦しい夜のせいかな。本当に今年は暑い日が続く、何とかしてほしいもんだ。フランスの夏はやっぱり暑いのだが、日本ほどではなく、なによりも湿度が低いので、身体には優しい。しかし、従来日本の夏はこんなに暑くは無かったように思う。地球温暖化が確実に進んでいるということか。アメリカでは火星移住計画がまじめに考えられているらしい。



人工的に大気や海を作って人類の住める環境にするという気宇壮大な計画だ。してみると俺たちの15世代位の末裔は、火星の海を帆走ってるわけか？もっともヨットなどという代物があるとすればだが。この年代、火星の海では鮪みたいな大型生物はまだ棲めそうもないだろうから、新鮮な刺身は贅沢というものだろう。何とも味気ない話だ。しからば、今宵の三浦三崎で、銭湯の後、鮪で一杯なんてのは至福の一時と言えるかな。

# その名はムサシ



今となっては生年不詳。房州の生まれと聞く。その名の由来は、天心二刀流の如くジブとメインとを自在に操るからとも、ストイックなヨットマンとナンパ親父の顔とを使い分けるからとも言われるが、これまた不詳。現在に伝え聞くのは概ね以下の通りである。バブル期前頃、世に一足先んじてM&Aを繰り返し、最盛期には全長37ft、クラブ員20余名を数える大クラブ(?)へと成長するのに併せて、クラブの多角化推進の号令の下、下級船員養成舟、釣り、接待舟、花火見物、見知らぬ人(女性)のご招待、酒処、等々、種々の事業への多角化に精を出したらしい。(お気づきとは思いますがレースには手を出さなかったらしい。)その後のバブル崩壊後はこれまたいち早くリストラによりスリム化を実行し全長を34ftに縮小、モーニング娘の如く一部メンバーの入替があつて、現在に至る。前首相がIT革命を掲げる直前に無理矢理クラブ内のIT化を進め、パソコン音痴も何時の間にやらe-mailによる連絡が当たり前となり、今ではなんと訳の解らぬままHPで連絡を取っているらしい。

そんなこんなで舵取りの居るんだか居ないんだか解らないまま時流に流され、ついでに潮に流された挙げ句、なんと由緒正しいクラブに拾って貰えたムサシ。こんなわけわからんちんですがこれも何かの縁、運の尽きとあって、末永く宜しくお願い致します。

尚、末筆ながら、メンバーを(自分で名付けた)ハンドルネームでご紹介させていただきます。

HarrisonNY, Hillsboro, hisapon, Koky, nobu, shu, sima, YANAGAWA, のぼたん, ムサシ運行管理官  
以上10名が現在のメンバーです。それぞれの人と成りについては順次マリナーでご紹介させていただきます。  
またムサシへのご連絡、お問い合わせ、インネン等は、  
musashi\_yc@hotmail.com 迄お気軽にe-mail下さい。



## ムサシ回航時の航海日誌

解説・2001/3/20(Tue)、長年お世話になった浦安マリナーから新天地YYCへの回航中のムサシ船内から発信された、e-logbook。  
当初予定は、3/18(Sun)に回航実施の予定だったが、浦安マリナーにて、エンジンかからず、メンテ業者にも見放され、クラブ員の素人集団自ら、燃料系等をオーバーホールしての回航。  
機関に関してかなりの不安を抱えての回航となった。

Sent: Tuesday, March 20, 2001 7:59 AM

Subject: 『ムサシ』現在位置 1

- > 浦安マリーナ 07:30 出航、エンジン快調 『ムサシ』浦安沖航行中、
- > 天候:晴、風速 0m、針路 210° 艇速 5 ノット機走のみ。乗員 6 名 関本
- > ・阿久津・柳川プラス子供 2 名・岩倉、YYC まで 20 マイル、12:00YYC
- > 到着予定。浦安さようならー

Sent: Tuesday, March 20, 2001 10:32 AM

Subject: 『ムサシ』現在位置 2

- > 『ムサシ』ベイブリッジ沖航行中、天候:晴、風速 3m、針路 270°
- > 艇速 5 ノット機走のみ。YYC まで 8 マイル、12:00YYC 到着予定。
- > クランベリーを 2 杯飲んで少し酔ってる？
- >
- > 以上

Sent: Tuesday, March 20, 2001 10:56 AM

Subject: 『ムサシ』現在位置 3

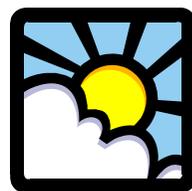
- > 『ムサシ』ベイブリッジ沖航行中、天候:晴、風速 3m、針路 270°
- > 艇速 5.8 ノット機走のみ。YYC まで 5 マイル、12:00YYC 到着予定。
- > 北緯 35.23,東経 139.44,あと 1 時間。順調です、以上

Sent: Tuesday, March 20, 2001 11:55 AM

Subject: Re:Welcome to Yokohama

- > ただ今無事到着、案内ありがとう。

# YYCシリーズレース



2001年

第1戦

4月8日

参加艇：6艇

第1位 ウ・ラ・ラ  
第2位 風神  
第3位 ステラマリス

第2戦

6月10日

参加艇：6艇

第1位 ハマトラ  
第2位 ALWAYS  
第3位 BIG SHOT



第3戦

7月8日

参加艇：8艇

第1位 ウ・ラ・ラ  
第2位 ALWAYS  
第3位 エリスブルー

理事長杯

8月27日

参加艇：5艇

第1位 風神  
第2位 BIG SHOT  
第3位 ステラマリス



第4戦	10月14日
第5戦	11月4日

# 第1回 水巻杯

松浦 孝志

昨年8月水巻晴夫さんが急逝されました。長年横浜ヨット協会の役員を引き受けていただき、当協会の発展にご尽力いただきました。ここに感謝とそのお人柄を偲ぶため「水巻杯」を開催することになりました。

レース前に故人の遺志である「散骨」をとりおこなうこととなりました。水巻さんがこよなく愛した「ビッグマッキー」には遺族の方々や共同オーナーのみなさんが乗船し、ハーバーの出口にあたる根岸No7に静かにアンカーを降ろしました。愛艇はバウよりスピンをはらませ最後の別れを悲しんでいるようでした。レース参加艇や仲間の船がビッグマッキーの周りを回りみんなが見守る中、水巻さんの遺骨が静かに散骨されました。

涙をふくひまもなく引き続いて水巻杯がスタートしました。コースは根岸 No7～潮観ブイ～根岸 No3～根岸 No7の4マイルでおこなわれました。風は南東の軽風でちょうど上マークが真上になり実力がそのまま出そうな状況です。下1から田島さんが乗る「クラゲ」がジャストスタート、それを「オールウェイズ」が追いかける展開。右にのびた「クラゲ」はややオーバーセイリング気味に上マークを回航し無難にスピンを展開しNo3でジャイブを決め、2番手以下を大きく離しNo7に向かいました。ゴール直前で風が南西に変わり、スピンからジブにチェンジもスムーズに行われ、トップでゴールしました。続いて「オールウェイズ」「ビクショット」「ラグタイム」「ステラマリス」「ムサシ」の順でフィニッシュしました。

レースの後は「水巻さんを偲ぶ会」が行われました。水巻さんといえば焼きそばを思い出します。焼きそばを食べビールを飲み水巻さんの思いでを語ることができました。

レース結果は「クラゲ」が優勝、「オールウェイズ」が準優勝となりご子息の水巻新次から優勝カップ、副賞が手渡されました。

来年も多くの参加艇があり、ますます水巻杯が盛会であることを望みます。そしてビールを飲み、ヨットや水巻さんのことを大いに語ろうではありませんか。

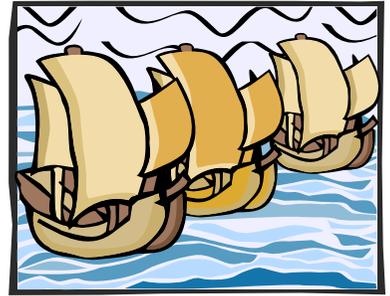


# RAG TIME 参戦記

玉井 正登

最近、ヨットレースにはまってしまい、YYCのクラブミーティングは勿論お隣のYBCの練習レースにも、欠かさず参加するようになってしまいました。無論長年乗っているBIGMACKYではありません。あれは亡くなった晴夫さんの情念がそうさせるのか、海に出せば酒を飲まずにはいられなくなるヨットなのでレースには不向きなのです。という訳でレースには専ら愛艇RAGTIME、J-24で参戦と相成る訳であります。もともとレースなんぞ金輪際、出ないと豪語していたのですが、晴夫さんが在る時、「偶には小さなヨットで早く走ってみて一な。J-24のチュウブルでも買って乗ろうか……」と酒の勢いで口走り、その時のBIGMACKYのあまりの帆走の遅さ（風が良ければ決して遅くはないんです）にこちらもついその気になってしまって、なんとはなしにJ-24を探し始めてしまったのが、この話しの始まりです。

あちこちに声を掛けて出物を漁っていたのですが、色好い返事が無くて話しは一旦止まっていた。そのうち晴夫さんがBIGMACKYのメンバーを残して逝ってしまい、J-24の話どころではなくなってしまいました。しかし彼が逝って一ヶ月位してからJ-24の出物の話しが来はじめ、彼の言葉を思い出すと同時に自分一人でもいいからJに乗ってみようかなと思い始めてしまったのです。そんな折、YYCメンバーの成島さんが夢の島に売りに出てるJがあると教えてくれ、早速検分に出かけました。あちこちにヒビが入り、くたびれた艇でしたが、横腹にRAGTIMEと大書きされた船名に何だか心動かされてその場で「これ引き取ります」と言ってしまったのでした。同行の家内は何も言いませんでしたが、きっと呆れていたことだと思います。そして成島さん達のAMATERASU号にエスコートされてRAGTIMEは2000年10月YYCに回航されました。



その翌月のYYCミーティングではファーストフィニッシュを飾り、クルー一同大いに気を吐いたのですが、レイティングが分からんということで、公式記録とはなりません。その後の成績はどういう訳か（分かっているけど・・）振るいません。特に同型艇BIGSHOT JR. がRAGTIMEの隣に来てからの成績は悲惨の一語に尽きます。しかし負けても、走りが悪くてオーナーがやる気を無くしてもRAGTIMEのクルーはめげないのです。こんな頼もしい(?)連中がRAGTIMEを可愛がるので、オーナーも次のレースについて出してしまうことになります。自分の耳を疑ってしまうような恐ろしい事ですが、なんだかセールも新調しようなどという大それた話しも出てきました。

本当はヨットでは酒を飲んでストレス解消して楽しく遊びたいんです。

レースなんか金輪際でないけど今でも心では思っています。でもこのままでは止めるにやめられない気がしないでもない。

クルーの面々よ。もう少しまともにRAGを乗りこなせるようになったら思う存分酒を飲める、広いデッキを持った素敵なヨットを探そうぜ！

## あんぽんたんの ミドルポート参戦記



田口 裕子

「お前ってただのあんぽんたんじゃなかったんだな」はウララのオーナー松浦さんのお言葉。ウララ乗船2回目のことである。シート整理と言われるままのスピントリムだけでただのあんぽんたんからあんぽんたんに昇格したのだった。そして「レースやってみるか」と続いた。

そんなきっかけで硬派と思っていた恐れ多い（大いなるカン違いだったが）ウララに乗りこむことになった。そんなこんなで、今年でミドルポートレースも2回目の参加となる。

5月3日 （暴風雨！！）第1レース8位。第2レース3位。目が覚めTVをつける。「海・山へのお出かけは危険です」お天気お姉さんが話している。三崎口行きの電車から見る海はうさぎがいっぱい走っている。これはノンレース！！甘い考えがよぎる。「田口早く着替えろ！」当たり前のようにカップを着こむ松浦さん。「えっ、やるんですかー？」追いてかれる..... やっやっぱり～ 

そんな暴風雨の中、レースが始まる。マストが折れたり、ブローチングする船を多数見る。ウララはスタートを失敗し、追いあげたものの8位であった。バウマンがスタートラインを見て、「全然大丈夫だ」と呆れて帰って来てしまった程のスタートラインとの距離であった。（余談だが、ボソッとつぶやくような言葉であったがスキッパーには重く響いたようで、その夜、「ヤベ～」 「イケネ～」とうなされていた。）



第2レースは3位。ウララのメンバーは地方勤務者が多く、昨年のレース以来という人が珍しくない。(ミドルボートレースは同窓会のようなものである。) まあ1レースはスタートの失敗もあるが、慣らしと考えると、第2レースから本来の力が出始めたと言えよう。(なあって)

5月4日 🌞 第3レース 4位 第4レース ノンレース  
昨晚も何だかんだと飲んでしまったが、晴れやかに起床。



「う～ん、いいお天気! 😊」

昨日とはうってかわっての青空。青い海に浮かぶヨット。それを見下ろしながらウララの定宿小網代の静観荘の大きなお風呂に朝から入る。“昨日と今日とで天気を半分ずつにすればいいのに...、まったく自然っていう奴は勝手だなあ” ともっと勝手なことを考える私。お風呂から上がると新鮮なあじの干物とかわはぎのあら汁が待っていた。レースとはいえ、クルージングのような楽しさまで感じてしまう。しあわせー!! さあ、はりきって行くぞ!!

スタートは本部艇側よりアウトマーク寄りが有利。ラインをなぞるように下へ行く。有名(なの?)なカラスが目の前にいる。プロの重圧感のようなものが漂い、かっこいい。

そのカラスに追い出しをかけられるかのように下へ下へとマークぎりぎりまで行く。下には1艇しかいない... その距離ぎりぎり。スタートまで時間はわずか。ラインから外に追い出されそうだが、逃げるにはルームも時間もない。ティラーを握るしんちゃんの真剣な表情。バウマンが「まだ行けるよ」「行け」「出てないよ。行け!」と怒鳴って艇速を止め粘るしんちゃん... さらにバウマンが怒鳴る。

中間のピットにいる私。2人の状況、思いが分かる。そしてすぐ隣のカラスのクルー達の「どうするんだ、こいつら」という余裕たっぷりのにやにやした顔まで目に入ってくる。

「行けるよ、行ける、しんちゃん!」私もつい叫んでいた。

.....5・4・3・2・1スタート! カラスを抑え好スタート!! と——っても気分がいい。しんちゃんナイスだよ! 晴ればれとした気持ちでハイクアウトし、前を見つめ、レースに集中していく。

私はこのスタート前がとても好きである。ピリピリとした緊張感。ルールを駆使して他のヨットをけん制する。追いつめたり、逃げたりしながら少しでもいい位置に臨んでいく。私がレースに魅せられた理由の1つだ。

で、いい位置にいたウララ。ウララの得意とする風の強さがなく4位に終わる。その後、風はピタッと止み、昼寝タイムとなる。結局第4レースはなくなる。

「ボウリングにでも行く♡♡♡?」.....すぐに却下される。



最後の夜は新ルールブックを持ち出し論議。お酒も入り白熱する。

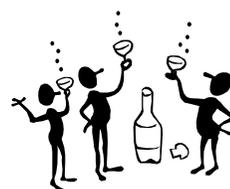
「ねえー、ねえー、それってさ、どういう事？」

「田口さん、ちょっと待って下さい」

赤い顔した岡本くんが答えてくれる。好ましい若者だが、

待っても待っても相手にしてくれない。“ふーんだ、いいよー！！”

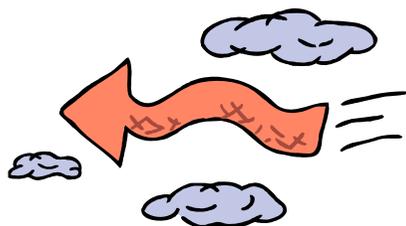
三つ折マットレスで囲いをつくり遊ぶ。全く無視。——その後、ふと目覚めると、乱雑に倒れたマットレスに埋もれ寝ていた私。次の間には、きちんと敷かれた布団で男衆が健やかに寝ていた。……情けない。



5月5日 🌻 第5レース 4位

今日はショートディスタンス。油壺から海瀬島をまわる。

アクションがそれ程ない。いい風をつかんで走れるかがポイントだ。が、今日も風は弱い。



風を見つけ、風を見つけ、沖へ出て行く。この岸寄りに行くか、沖に行くかが勝負の分かれ道であった。速い船とミーティングしたり、“もしかしたらウフフ ♡♡♡” と思ったが、岸寄りにいい潮が入り、沖に出たウララは遅れてしまう。“勝てる！” と思っていたのに後にいたヨットにおいてかれるあせり、悔しさ。

“よし回航後の上りで追い上げるぞ！” と気持ちを切り替えているとセイルを下げたカラスが見えた。“もしかしてゴール短縮？” その通りであった。自然を相手にしているスポーツの仕方なさではあるが、最終レースなのに不燃焼のようなすっきりしない気持ちが残る。

総合4位。こうして2001年ミドルボートレースは幕を閉じた。

昨年のレースでの役目はランナーであった。一番後ろで皆の動きを見てるだけで、参加はしたが仕事を増やすお客様であった。

今年はピットの役をもらえる。やはり仕事は増やしてしまっていたが、レースの楽しさ難しさを身体で感じられた。レースが終わり松浦さんが言った。

「ピット誰にも触らせなかったな。」

「はっ？？？」

「役目は任せられたって事だよ。」

今年、ミドルボートレースで“あんぼんたん” はピットに成長できたようだ。



# ヨット体験乗船会

2001年7月20日

横浜ボランティア協会主催による「横浜の海と子ども事業」にて



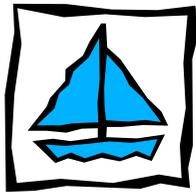
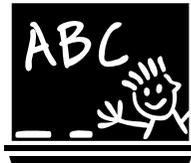
# 納涼ビールパーティ

2001年8月25日



# 第15期クルーザーヨット教室

2001年5月13日 ~ 7月22日



# ★ 忘年パーティ ★



2000年12月3日

ヨコハマグランド・インター  
コンチネンタルホテルにて





## 2001年夏のクルージング

原 雄二 (Felix クルー)

8/10(金)~8/13(月)の 4 日間で伊豆諸島に夏のクルージングに行ってきました。他のクルー皆は更に長く宿泊し一週間近いクルージングでした。ここでは僕の経験した 4 日間のクルージングの報告をさせていただきます。

### 【8/10(金) YYC~浦賀(ベラシス)】

昼食を浜ちゃんで済ませ午後に三崎に向けて出発しました。ところが南風で真登り状態が延々と続きます。潮の流れも直進方向に真向かいだったのでスピードが全然出ません。



2~3 ノットくらいでした。当初の予定であった三崎に到着すると夜中になってしまうと判断し予定変更です。5 時頃に浦賀のベラシスに寄港することにしました。

夜に今回のクルージングに参加する全メンバーが集まりました。この日の晩は仕事を終えた鈴木さんが駆けつけてみんなでカラオケに行き盛り上がりしました。非常に楽しかったです。帰りは鈴木さんにカラオケ屋から船まで車で送って頂きました。どうもありがとうございます。



### 【8/11(金) 浦賀(ベラシス)~大島(波浮港)】

この日は早朝 4:00 起きです。みんな眠い目をこすってなんとか出航したのですが、やはり睡眠には勝てなかったようで、ほとんどのクルーは船の中にこもり前半はほとんど寝ていました(笑)僕はデッキの上でずっと寝ていました。

前日とは違い潮に流されることもなく順調にクルージングすることができました。海の色が東京湾とは違い次第に蒼くなっているのが気持ち良かったのですが、まだ雲が厚く快晴とは言いがたい日でした。

大島の波浮港に到着するとそこには既に STELLA MARIS と ALWAYS が檣付けで留まっていた。夕方には風神も無事に到着しました。

Felix は大島にくるといつも女性陣はペンション、男性陣は船に泊まるということになっているらしく(!?)今回も女性陣は丘の上にそびえ立つペンションに宿泊です。夕食までは男性陣もペンションに押しかけ、プールで遊び、その後ゆっくりと熱いお風呂に入りその日の疲れを癒しました。一日中外で遊びまくった後のお風呂は本当に気持ちの良いものです。

夕食はペンションで BBQ です。BBQ といっても調理、焼き作業は全てお店の人がやってくれるので僕達はテーブルに座り待っているだけという「殿様 BBQ」です。海の幸から山の幸まで堪能し皆お腹が一杯になるまで食事を楽しみました。お酒も日本酒が登場し一升瓶などあつという間に無くなるのですからさぞかし飲んでいた人達は気持ち良かったことでしょう。

## 【8/12(金) 大島(波浮港)～新島&式根島】

早朝 6 時起きで 7 時出航です。前日に比べると睡眠も充分に取れましたし余裕のある出航となりました。目指すは新島です！**Felix** は去年のクルージングでも新島を目指していたのですが、例の三宅島噴火関連で港が封鎖されてしまい結局利島になっ



てしまいました。そういった意味で今年はリベンジなのです。なんでも聞くとところによると今年新島は港が工事中で入港できるヨットの数に制限があるそうだとのことでした。新島目指して出航したものの行ってみないと入れるかどうかわからないという状態でした。僕の胸にはこの時にまだ不安がかなり残っている状態でした。

出航は風神と一緒にでました。風神も同じく新島を目指します。**Felix** がジャイブを繰り返して新島に向かったのに対し、風神は観音開きです。結果は.....一足先に風神が先に新島に到着しました。新島にヨットをとめることができることを携帯電話で風神から聞き安心して入港することができました。途中の海の色はさすがに普段見慣れた東京湾のそれとは違います。蒼く透明でとても水が澄んでいます。こうでなくてははるばる伊豆七島まで来た甲斐がないというものです。



初めて見た新島の感想は...やはり水が綺麗ということです。港の見えるすぐ近くに砂浜のビーチがあるのですが、その砂浜と海の色のコントラストもとても綺麗です。そこにいるのは若く真っ黒に日焼けした男女ばかりで「伊豆の中のリゾート」といった感じです。

船をとめた後は **Felix** メンバと風神メンバで温泉、海水浴です。普段いつも海で遊んでいる

とはいえ船の上でのことです。みんななかなか全身に海水を浴びる機会などないものですから新鮮な一時となりました。また、新島の温泉ですが岩風呂、混浴、おまけにほとんど海水とあつては温泉といった感じよりも遊び場といった感じが強いものでした。案の定みんなその温泉では満足せずに、町に行って銭湯で体を洗いなおしました。

夕食を町の居酒屋でとり終え、船に戻って一休みの時間です。船から夜釣をして楽しむ人やお酒を楽しむ人、すやすやと寝に入る人など様々です。疲れていた僕は船ではなくコンクリートの土手に寝袋を敷いて寝ようとさっさと寝床の確保に勤しんでおりま



した。そこで感動したのが「満点の星空」です。天の河が見えるほどたくさんの星々が夜空を覆っていました。しかも 10 分に一度は必ずみえるという流れ星もとても奇麗でした。数えきれないほど見ることができました。同じ夜空なのに東京都内とは大違いです。都会の空気がいかに汚れているかを再認識し、改めて自分が今東京都内を離れ島にきていることが確認でき「伊豆七島っていいなあ...」としみじみ思いながらいつのまにか寝に入っていました。

### 【8/13(金) 新島～伊東】

外で寝ていたので目覚めは太陽が昇ると同時です。なんとも気持ちの良いすがすがしい朝でした。しかしそう思っているとすぐに激しい雨が降り始めました。



この雨には参りましたが、お昼には気を取り直して式根島に行くことにしました。自分達の船ではなく定期船に乗って一時的に行くことにしました。

式根島上陸で今回のクルージングで「大島」「新島」「式根」の三島に上陸したことになります。それだけでも何か充実したクルージングだと感じてしまうのは僕だけだったでしょうか？

新島は雲に覆われて常に曇り気味でした。式根島から新島を見渡すと雲に囲まれている様子をはっきりとわかります。背の高い新島は上昇気流が発生しやすいのでどうしても雲に覆われてしまうのでしょうか。その点式根島に広がった青空は素晴らしかったです！日差しが強いせいで海水に降り注ぐ日光が水の透明度をますます増しています。高い場所から海をのぞき込むと海底が見えていました。軽く透明度 20M は越えているでしょう。セミの鳴く声に耳をかた向けながら「緑と海の島」を体で感じることができました。

式根島に広がった自然の素晴らしさに感動しているうちに、すぐに帰る時間が来てしまいました。「次回はもっとゆっくりと時間のとれる時に来よう」と決めながら下田に向きのフェリーに乗り込みました。

### 【あと書き】

日本地図でも確認できるほど離れた距離をヨットで実際に移動してみると、改めてこの乗物のもつ素晴らしさ、ありがたみがわかります。普段何気なく乗せてもらっているのですが船にもオーナーにも感謝しなくてははいけませんね。

またやはり南に行けば行くほど海が奇麗になっていくのが実感できました。一度今回のクルージングのような体験をしてしまうと「次回は三宅島へ...、八丈島へ...、小笠原へ...」と夢が膨らむのは仕方の無いことなのでしょう。

また日本全国色々とハーバーや港がありますが、横浜に位置する YYC は伊豆七島へのアクセスが 2 日もあれば余裕で



持って行くことが可能です。そのこともとてもありがたいことです。毎年夏休みは伊豆七島へヨットを走らせ島の持つ素晴らしさを少しづつでも堪能していければ良いなと思います。そしていつかは小笠原ですね(^\_^)



## My Favorite Anchorage

その1) 「のらり」 櫻川芳男

中木（南伊豆）を紹介します。

ここでは、たくさんのポイントで海水浴、スキューバダイビング、釣り等が楽しめるので夏場 船外機付きのテンドーを持参して、風待ちのゆとりをもって遊んで下さい。特に北東風の時がベストで、西風の際は波が立ち湾の内側でしか遊べなくなります。それと夏以外の季節では、ただの寂しい漁港ですが梅雨前が一番海が綺麗になるそうです。

ヨットで行くには、下田からは日本水路協会の港湾案内を見ながら暗礁群を避けて石廊崎を回ると直ぐに三角の小島「鯉島」が見えてきます、その鯉島と陸地の間は急激に浅くなりますが（7M位？）今まで一度も船底を岩にぶつけた事はありません、その右手すぐ前方にお猿さんの居る「大根島」があり、とりあえず大根島の沖側を回りこめば奥に民家が見えるので真っ直ぐ入って行けば中木港に入港です。

中木港は入って左側の岸壁がプレジャーボート用ですが、隣の入間港の漁船の避難用に5本くらいシンカーが有り、稀にほぼ突然漁船がやって来ますが、それ以外の時はスターンアンカーと共にその太いシンカーから細いロープを付けてスターンに縛っておけば、夕方の強烈な谷風にも安心です。

8月13日は中木の花火大会で夕方からヨットは全艇一時沖に錨泊させられ花火見物、その後もとの場所に戻りますが、海が静かならそのまま沖で錨泊もいいですね。

ここの綺麗で安全な海には、イカ、タコ、サザエにアワビ、それにいたる所に秘境もあり、橋の上からは度胸試しのダイビング等、素潜りの初心者や子供には絶好の遊び場所です。

でも、最近雑誌等で取り上げられてお盆の頃は人でいっぱい、十数年前は釣り客とその家族、それとヨットくらいしかいなくて静かによかった！！



地図を見ながら中木の紹介をします

①ダイバーショップ 最新式?のホース付き(ポンベ無し)潜水具有り、高級有料シャワー有り



②スーパー外岡 ほとんどの物は揃う

③公園内 公衆トイレ

④レストラン双葉(夏だけ営業、普段は下賀茂の洋品屋さん)毎日ここで食べる

⑤バス停、下田からは一時間、途中の下賀茂にはとても大きな公営のお風呂とバス停近くの小さな旅館でお風呂に入れます



⑥公衆トイレと無料シャワー、近くに分別ゴミ置き場

⑦小さくて低い橋では、小学2年生くらいまでの子供が勇気を出して海に飛び込む

⑧高い方の橋では、小学5~6年生になると橋の欄干の上から勇気を出して飛び込むが引き潮の時は水深が浅く綺麗に飛び込むと海底にぶつかるので気をつけましょう

⑨スターンアンカーのバウ付けで、岸壁の両サイドに船を着ければ突然入間の漁船がやってもどかさず必要は無い。



⑩洗岩に気を付けて、

⑪いつも波静かな海水浴場

⑫歩いて泳いで行けるが、テンダーで行くのが楽、海の幸があるかも



⑬テンダーから釣り、素潜り、

⑭素潜り

⑮ヒリド浜? ヒリゾ浜? あんぞの浜? 本当の名前が分からないが一番いい所、船外機付きのテンダーで行くのがいいけど、漁船の渡しは1往復で¥1000 トイレも売店も何にも無し、でも最近是有名になってお盆の頃には座る所も無いくらい賑やか。潮が引いてる時の方が楽しい

⑯猿の居る「大根島」上陸出来る



⑰海の静かな時に秘境探検、ヒリゾ浜から歩いて行く(無理)?かテンダーで行く、きっと海の幸がいっぱいのはず、多少の事ならOKみたい、、

⑱鯉島

ボンボヤージュ!!

中木のイラスト



# YYC 「横浜の海」

「横浜の海」、横浜に住んでから10年が経とうとしていた私だったのですが、横浜の海には縁がほとんどありませんでした。

当時、会社の知人の紹介で油壺のヨットにお世話になっていて、ヨットライフは”酒・釣り・散歩”が主なものでした。ヨットでベロベロに酔っ払って千鳥足になって京急に乗って横浜に帰る（笑）。そんな週末を大切（^^）に楽しんでいました。

そんな油壺で楽しんでいた私だったのですが、”横浜のヨットの人達はどのようなヨットライフをしているのだろうか？”と考える時がよくありました。でも知り合いはいない。そんな時に”YYCヨット教室”の宣伝を見つけ、YYC「横浜の海」にデビューすることが出来ました。

YYCに来てみてまずビックリ、人がいっぱいいて、その賑やかさは驚きでした。

海もまた賑やかでした、タンカー、釣り舟、作業船、自動車運搬船、多くの標識。船舶免許の教科書に出ていた船・標識が目の前に広がっていたのです。

多くの船が行き交い、気を付けていないとブツカリそうで注意が必要な海です。その中をセーリング技量で回避しながら進んでいくヨットがこれまた刺激的でした。

それから、レースというものにまったく縁の無かった私ですがYYCクラブレース

への参加を重ねるごとに、レースの勉強・経験が出来て少しずつではありますがセーリングの技量が身に付いてきているのではないかと思います ^^ ;。

YYCにお世話になってから、はやくも3年がたちました。

その間いろいろな行事・レースクルージングに

参加させて頂きとても楽しく有意義に過ごすことが出来ました。YYCの皆様ありがとうございます。これからも宜しくお願いします。



アン・ドウ・サンク クルー 伊藤 淳一



# ヨットとデザイン

井村 由香子

横浜ヨット協会の「クルーザーヨット教室」に参加・あるいは検討中の皆さん、こんにちは。私はこの教室をきっかけにセーリングを始めた。その後、その時配艇されたアンドゥサンク号のクルーにしてもらい（オーナーの上野さん、ありがとうございます）、このクラブへ通うようになった。もうすぐ2年になる。



さて、楽屋ネタをばらしてしまうと、クラブの事務局からの私への原稿依頼は「ヨットとデザイン・色・形について述べよ」というものだった。私の商売がグラフィック・デザインだからだ。

その依頼で気がついたことは、船体について美的興味を私がまったく持っていないということだ。理由の一つとしては乗り物に所有欲がないため。二つ目は今後もこれからもヨットにビジネスとして関わることはないと予測されるため。

そんなわけで、私の関心の目はまったく閉じてしまっていて書く材料はなかった。ごめんなさい。

でも、海には私の好きな絵があるよ。

環太平洋の島々から南米にかけて、縄文式土器が発掘されるため、その文化は日本からはるばると伝播していったのだという仮説がある。結果として何世代もかけて少しずつ船でそこまで移住したのだ。



日曜日、煙突とクレーンの林を望む東京湾でヒールした船の風上側にハイクアウトしながら、私は彼らの旅を想う。その航跡は太平洋をフレームに採り、風に対して描かれた絵画だ。私たちが地球の表面に住む小さな生き物であることを絵は語る。



私がこれまでにヨットで行った最も遠いところは千葉県だ。残念ながら、ほとんど東京湾から出たことはない。だが、伊豆七島あたりなら風に依った旅に出る機会を得ることがある。ヨット教室がその可能性の扉となったのだ。それはあなたにも開かれている。望むらならば、あなたは太平洋の絵を描き足すこともできるだろう。

# 南国の結婚式にて

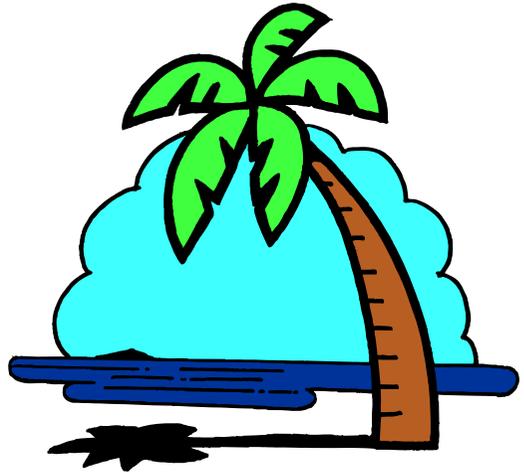
秋間 隆志

この度、6月22日に沖縄のカヌチャ  
ベイステラ教会にて結婚式を挙げました。  
「なぜ、沖縄で・・・？」という意見が  
ありますが、思い出や、大好きな海がある  
沖縄で！というのが私の希望でした。

今から5年前の夏、当時の私は、仕事に  
追われた毎日を送り、精神的・肉体的に疲れ  
果てていました。そんな私は、遅い夏休みを  
取り、友人の勧めで沖縄に行きました。  
那覇空港からホテルへ向かい、特に遊ぶ事  
など考えてなく、のんびり過ごしたいと  
思っていたので、ひとまず海パンに着替え、

缶ビールを持って隣接するビーチへと直行しました。ビーチチェアに寝転び海を見なが  
らビールを飲み、心地よい真南風（マハエ）潮の音にいつしか眠りに入り、覚めた頃は、  
すでに夕方過ぎを回っていました。ちょうどその時、海面が夕日でオレンジ色に染まり  
今まで見たことのない景色にめぐり合いました。

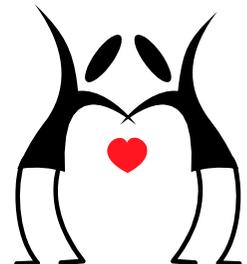
しばらく海を眺めていると、それまでの疲れが消え癒された気分になっていきました。  
いつのまにか、そんな沖縄の魅力に取りつかれ、気がつくとも毎年必ず訪れるようになって  
います。



さて、式を挙げた場所は本島の太平洋側に位置するところ  
にあるホテルで、着いたその日の夕方から式が始まりました。  
私たちの結婚式に合わせたかのように、前日の沖縄は梅雨明  
け宣言が発表され、晴天の中式が行われました。しかし夕方  
と言ってもまだ日差しが強く、日中とあまり変わらない気温  
でした。南国の花と海が見えるホテル内の教会での式は、身  
内だけの出席者でしたが私の理想とする結婚式となりました。

結婚式次第はあまり変わったことはないのですが、ひとつだけメモリアルプレートにお  
互いの名前を刻む作業がありました。結婚式を行った日とお互いの  
名前が入ったメモリアルプレートは、教会の中にもいつまでも飾られ  
ています。

またひとつ沖縄に新しい思い出ができ、いつまでもメモリアル  
プレートを見に行けるようこれからの生活をがんばっていきたく  
と思います。



# ヨット教室を受講して

ステラマリス スクール生 西 志歩

毎回 YYC に来る度に何だか実感がわからない。

自分がまさか、ヨットに乗るようになるなんて、いつか乗れたらなあ、ってでもそれっ  
てもっと先の事みたいに思っていたので、たまたま見付けた YYC のホームページでス  
クールを見つけて応募して、なんだかどんとんと話が進んじゃって、あれ？なんで私は  
ここにいるんだろう？そんな感じ。

でももうかってに、ステラマリスを見ると嬉しくなる。

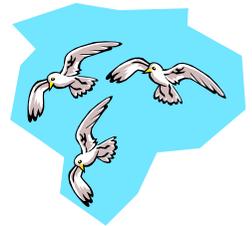
この船が一番いいじゃんくらいに思っはしごにのぼる。

海へ出るとふーっと風が出てきて気持ちが良くなって、よせばいい  
のにふらふらしながらセイルを取り付けたり、あげたり、ロープの  
もやい結びに時間がかかったりして、もたもたするなあって言われ  
ても、何だか、嬉しい。(マゾじゃないんだけど) この嬉しさは何なんだろう？

8月には大島へ行った。

出航の夜は、ちょっと(かなり)、感動的だった。

昼間の海は、広くて、明るくて、なんて言うのかな、海は広いな大きいなって感じでそ  
れはそれで好きなんだけれど、夜の海は、街や船の明かりがきれいで、静かで、深くて、  
包み込まれるような感じがした。ずーっと穏やかな波で、月明かりがきれいで、もやが  
深くて、このまま私が変な方向に舵を持っていつちゃったらどうなるんだろう？って思  
うけど、ま、いっか、気持ちいいしなあ、みたいな感じ。(船酔いで死んでた人、ごめん  
なさい) 海にいと、小さな事(日々の)が、ま、いっか、ってなる。みんなもそうなの  
かな？



ヨットで海にいるのは思ってた以上に素敵な事でした。

自分で自由にヨットを走らせられるようになったら、きつともっと、楽しいはず。

今は、タックの舵取りでもワタワタしちゃうけど、時間はかかっても、色んな事を、自分に任せてもらって大丈夫です！って言えるようになりたい。なれるかな？

皆様、それまで諦めずによく御指導下さいね。

これからもどうぞよろしくお願ひします。

# YYCメールアドレスのご案内

月々300円の利用料でYYCアドレスを取得すると

- ◆YYCのドメイン名でのメールアドレスが取得できます

(例：○○○@yyc.or.jp [○○○はユーザー名])

YYCメンバーシップをさりげなくアピールできちゃいます

- ◆YYCのホームページ上でメールの送受信が行えます

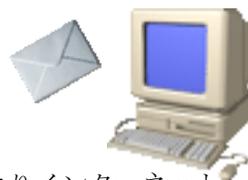
ネットサーフィンならぬネットクルージングにもYYCをご活用下さい。

## 【ご利用方法】

お使いのブラウザ（インターネットエクスプローラ等）を起動し

<http://webmail.yyc.or.jp/>

のページを開いて、上記のアドレスとパスワードを入力することによりインターネット上でメールの送受信が行えます。（画像の添付も可能です。）



また、ユーザー登録内容の変更・設定が可能です。

<http://help.yyc.or.jp/>

のページより、ユーザー名（ent0267-○○○）・パスワード（\*\*\*\*\*）を入力して

・パスワードの変更

・メール転送先設定

を行うことができます。

## 【メールソフトウェアの設定】

今お使いのアウトLOOKエクスプレス等のメールソフトを使ってメールの送受信をする場合、ツール→アカウント→メール→追加

で接続ウィザードに以下の項目を設定することによって使えるようになります。

メールの受信サーバ（POP3）・・・ mail.yyc.or.jp

メールの送信サーバ（SMTP）・・・ mail.yyc.or.jp

メールアドレス・・・ ○○○@yyc.or.jp

メールアカウント・・・ ent0267-○○○

メールパスワード・・・ \*\*\*\*\*



尚、YYCアドレスを取得された方には、YYCアドレスが記載された名刺（100枚分）を無料にて作成致します。

## 編集後記

いよいよ21世紀がスタートしました！今年の夏は良い天気が続き水不足にはなるもののクルージングには絶好のコンディションだったのでは？かと思えば9月に入ると台風の当たり年（YYCの上空に台風の間が見えた！？）にもなってしまい、何ともアメとムチのような天候はやはり異常気象のせいなのでしょう。これから秋が深まるにつれクルージングのベストシーズンとなりますが、穏やかな天候が続き皆さんが楽しめることを期待したいです。

中野

JYYC編集委員

山戸 敏男

鈴木 弘樹

中野 美穂子

Journal of the Yokohama Yacht Club	
No. 10	
発行	2001年9月22日
発行者	社団法人 横浜ヨット協会 広報委員会
〒235-0016	横浜市磯子区磯子1丁目5番16号
電話	045(751)1304
FAX	045(751)1305
<a href="http://www.yyc.or.jp">http://www.yyc.or.jp</a>	
e-mail : <a href="mailto:postmaster@yyc.or.jp">postmaster@yyc.or.jp</a>	